



六
花
子
の
巻

土岐文庫
文庫17
W45
6



文庫 17
W45
6

掛まらぬ怒りれどすめりみりしをききしりし
世中の車らきりしりしをききしりし
佛代をききしりしりしをききしりし
りし古へのりしりしりし古へのりしりし
古へのりしりしりしりし古へのりしりし
さう人解んぬりしりしりしりしりしりし
古へのりしりしりしりしりしりしりし
ほいしりしりしりしりしりしりしりし
りしりしりしりしりしりしりしりし

昭和六十年
土岐善吉氏
寄贈

010185145088

常陸國雜哥一首

まよまよい古へ通
しついでいりてふ
のこころが
○或本哥曰多良
知祢能こいしか大
く母といふな
らぬこのこころ
古へいりてふ
又云安麻多伎保
思母

△右二首常陸哥

信濃國雜哥一首

筑波祢乃尔比具波麻欲能 新番の唄 伎奴波安礼持伎

美我美家思志 記ふ大名持 神所 奴婆多麻能久路岐美祈斯 安夜尔伎保

思母 互よりてとせしむれがらうき天が衣を忘るる 古の男女の衣と

純裏衣著欲我念君之不所見比者鴨てふまよいへん

筑波祢尔由伎可母布良留 良利多の約 伊奈乎可母

加奈思吉兒呂我 子を悲しむりて

尔努保佐流可母 布乾を雪を布よえ

又ゆれまばまて又られ およそいへん

信濃奈流須我能安良能尔 和名抄け國の筑摩郡に亭賀つ

保登等藝須奈久許惠伎氣婆登伎須疑尔家里

玉川三浦三郎殿と集

阿良多麻能 遠江國 鹿玉郡 伎倍乃波也之尔

奈乎多氏天 汝を立村

由吉可都麻思目 雪う積

玉川三浦三郎殿と集

阿良多麻能 遠江國 鹿玉郡 伎倍乃波也之尔

奈乎多氏天 汝を立村

由吉可都麻思目 雪う積

玉川三浦三郎殿と集

阿良多麻能 遠江國 鹿玉郡 伎倍乃波也之尔

奈乎多氏天 汝を立村

由吉可都麻思目 雪う積

一本哥曰阿敬良久
彼多麻能乎思家
也志けり次く及く
玉のしめくも
同ト
古布良久波布自
乃多可称尔布流
由伎奈須毛とに
へふゆふふと
登

伊麻志はもの人を
直ははさぐで

りしむべし
も時ハさすをくす

佐奴良久波

延言さく寝る

多麻乃緒婆可里

玉の緒ハ者短

おれ一宮ハ

古布良久波布自能多可称乃奈流佐波能其

勢ちるもえ

登

此ののふハ名のとす

火ものぞくが水も流へね

駿河能宇美於思敬尔於布流

波麻都豆良

伊麻思乎多能美波播尔多我比奴

名ををりす

伊豆國哥一首
或本哥曰之良久
能多延都思母都我
本等短倍也美太礼
而米家武母倍也
上

伊豆乃宇美尔多都思良奈美能安里都追毛

都藝奈牟毛能乎

美太礼志米梅楊

安思我良能

乎氏毛許乃母尔

佐須和奈乃

可奈流麻之豆美

阿良之乎の伊を箭

許呂安礼比毛等久

静

共ニ經解

相模國哥十三首

共ニ經解

相摸祢乃乎美祢 今大山より雨降神社の立山より一平は祢乃の
見所久思和須礼久流 を嵐を又過つてきく来久くくんと
伊毛我名欲妣氏吾乎祢之奈久奈 妹をすく列来て去りて忘るるも
むつ一平をも思へ〇こそ防人の舟をり人

△或本哥曰武藏祢乃 此は秩父郡より 乎美祢見可久思 天とハ男と指さ

和須礼遊久伎美我名可氣氏 天とハ男と指さ

奈久流 祈りわたりけくと同類 安乎祢思 安乎ハ男と指さ

和我世古乎夜麻登敝夜利氏 衛士より来り城 麻都之 士の妻の命をいふ

下ハキリ足可利
なるとまはし加
良しもまは加利
なるとん

太須 麻都ハ松之ハ助辞 安思我良夜麻乃須疑乃木能未可 太須ハ奈久流也如の意

安思我良能波姑祢乃夜麻尔 山の上より又四方より相摸

安波麻吉氏實登波奈礼留乎阿 ちる嵐を故に管領ハハハル

波奈久毛安夜思 うゑ一田の子はぬまがくおるをす

己祢 判を今ハ 思多奈保那保尔 思多ハ裏よりしそりて又奈保

安思我良能波姑祢乃夜麻尔波布久受能比可判與利 〇不相毛惟下みま上の冬まき

今八みろのふけ

まゝも登る。○けあひ今なまは右の武本とく奉りし。存る三の句よりわかれ
兵より武本とくりべくもあはれ。且古今六帖にけめく奉りしもあはれ。ま
はるし抱ちんが
な文とせり。

可麻久良乃

和名抄鎌倉郡鎌倉

美胡之能佐吉能伊波久叡乃

仁徳

天皇紀に以播區椰輸伽之古俱等望ま。墨區妹毛吾毛清之河之。伎美
河岸之妹我可悔心者不持とよめ山或ハ川岸たの岩の崩る云。我久由倍伎已許呂波母多自。

麻可奈思美

麻は美

佐祢尔和波由久

佐は

可麻久良能美

奈能瀬河泊尔思保美都奈武賀

常ハ水乾く瀬満時ハ波の立川は所今も云。○都奈の物多

母毛豆思麻

百のまうけ

紅の是れ種くけついつけ

安之我良乎

應神天皇五年十
月紀に科伊豆国
令遣船長十丈船
既成之試浮于海
使輕泛疾行如馳
故名其船曰枯野

夫祢

足柄山の杉りく造る船と相撞の足柄郡と伊豆国ハ山後からさ

安流吉於保美目許曾可流良米

良米といふハ男のかく

己許呂波毛倍

己許呂波毛倍

是も上の祥子依女と男

阿之我利能乃比能可布知尔伊豆流湯能

山下にいて伊豆

波奈久尔

余ハ母多欲良奈敵呂何伊

余ハ母多欲良奈敵呂何伊

多欲良奈ハ徒んぬハ

阿之我利乃麻萬能古須氣乃

足上郡のまうけとり足柄の竹

下てハ所の下も酒勾川の上

阿之我利乃麻萬能古須氣乃

下てハ所の下も酒勾川の上

左といへば小管々 スガ 須我麻久良安是加麻可左武 今も上徳下徳
水は生るすげろわ こころいふ
とらふとあせとりふん こころいふ
あまもくもあせといへわ こころいふ
ま こころいふ
ま こころいふ
ま こころいふ

安思我里乃波故祢能祢呂乃 助辞 尔古具佐能 卷四 蘆垣
児草まこより我と咲 こころいふ
花妻とつけ こころいふ
也 こころいふ
比母登可受祢牟 代
べ こころいふ
り こころいふ

安思我良乃美佐可加思古美 且是乃五の句へつけ 久毛 久毛
利欲能 冠 阿我志多波倍乎 の重よこえ
許知氏都流可毛 か
美等能良受安里思乎美故之治能多武氣尔多知且伊毛我名能里都このう

山よ こころいふ
立其坂 三歎詔
云阿豆麻波夜 云阿豆麻波夜
相摸治乃 治 余呂伎能波麻乃 和名抄
可奈之久於毛波流留可毛 麻奈胡奈須兒良ハ

多麻河伯尔 武彘國多麻郡の多麻川 左良須氏豆久利 大井川

の こころいふ
美等能良受安里思乎美故之治能多武氣尔多知且伊毛我名能里都このう

山よ こころいふ
立其坂 三歎詔
云阿豆麻波夜 云阿豆麻波夜
相摸治乃 治 余呂伎能波麻乃 和名抄
可奈之久於毛波流留可毛 麻奈胡奈須兒良ハ

多麻河伯尔 武彘國多麻郡の多麻川 左良須氏豆久利 大井川

の こころいふ
美等能良受安里思乎美故之治能多武氣尔多知且伊毛我名能里都このう

山よ こころいふ
立其坂 三歎詔
云阿豆麻波夜 云阿豆麻波夜
相摸治乃 治 余呂伎能波麻乃 和名抄
可奈之久於毛波流留可毛 麻奈胡奈須兒良ハ

多麻河伯尔 武彘國多麻郡の多麻川 左良須氏豆久利 大井川

の こころいふ
美等能良受安里思乎美故之治能多武氣尔多知且伊毛我名能里都このう

山よ こころいふ
立其坂 三歎詔
云阿豆麻波夜 云阿豆麻波夜
相摸治乃 治 余呂伎能波麻乃 和名抄
可奈之久於毛波流留可毛 麻奈胡奈須兒良ハ

多麻河伯尔 武彘國多麻郡の多麻川 左良須氏豆久利 大井川

の こころいふ
美等能良受安里思乎美故之治能多武氣尔多知且伊毛我名能里都このう

山よ こころいふ
立其坂 三歎詔
云阿豆麻波夜 云阿豆麻波夜
相摸治乃 治 余呂伎能波麻乃 和名抄
可奈之久於毛波流留可毛 麻奈胡奈須兒良ハ

多麻河伯尔 武彘國多麻郡の多麻川 左良須氏豆久利 大井川

の こころいふ
美等能良受安里思乎美故之治能多武氣尔多知且伊毛我名能里都このう

山よ こころいふ
立其坂 三歎詔
云阿豆麻波夜 云阿豆麻波夜
相摸治乃 治 余呂伎能波麻乃 和名抄
可奈之久於毛波流留可毛 麻奈胡奈須兒良ハ

て下の不まをい
らぬいしうし
いしうしは保ま
も思ふしは保ま
ありしそまをい
別記を編く。

大家於保とあれど
右より於保也
しし 保まをい

伊可尔思氏古非波可伊毛尔武藏野乃。宇家良我波奈
乃伊吕尔低受安良牟。
今本を武家の名として注されたとハ云々
今本を武家の名として注されたとハ云々
今本を武家の名として注されたとハ云々

武藏野乃。久佐波母吕武吉。
武藏野乃。久佐波母吕武吉。
武藏野乃。久佐波母吕武吉。

尔吾者余利尔思乎。
尔吾者余利尔思乎。
尔吾者余利尔思乎。

伊利麻治乃於保屋我波良能。
伊利麻治乃於保屋我波良能。
伊利麻治乃於保屋我波良能。

比可婆奴流奴流和尔奈多要曾祢。
比可婆奴流奴流和尔奈多要曾祢。
比可婆奴流奴流和尔奈多要曾祢。

良我波奈乃。登吉奈伎母能乎。
良我波奈乃。登吉奈伎母能乎。
良我波奈乃。登吉奈伎母能乎。

佐吉多萬能。津尔乎流布祢乃。
佐吉多萬能。津尔乎流布祢乃。
佐吉多萬能。津尔乎流布祢乃。

乎伊多美都奈波多由登毛。許登奈多延曾祢。
乎伊多美都奈波多由登毛。許登奈多延曾祢。
乎伊多美都奈波多由登毛。許登奈多延曾祢。

奈都蘇妣久。冠。宇奈比乎左之氏。
奈都蘇妣久。冠。宇奈比乎左之氏。
奈都蘇妣久。冠。宇奈比乎左之氏。

等夫登利乃。
等夫登利乃。
等夫登利乃。

名をいし中ふ信濃の中麻奈尔。宇伎乎流布祢能。とら
是よる定うるねど共一地名なりしハかまひさるなり。

又「耳我山尔時を雪」降るる。同一本に不時と云はれ
一ここの方ののそ秋の初まると
よわ半交け名まがくあるゆえや。

又「耳我山尔時を雪」降るる。同一本に不時と云はれ
一ここの方ののそ秋の初まると
よわ半交け名まがくあるゆえや。

又「耳我山尔時を雪」降るる。同一本に不時と云はれ
一ここの方ののそ秋の初まると
よわ半交け名まがくあるゆえや。

又「耳我山尔時を雪」降るる。同一本に不時と云はれ
一ここの方ののそ秋の初まると
よわ半交け名まがくあるゆえや。

又「耳我山尔時を雪」降るる。同一本に不時と云はれ
一ここの方ののそ秋の初まると
よわ半交け名まがくあるゆえや。

又「耳我山尔時を雪」降るる。同一本に不時と云はれ
一ここの方ののそ秋の初まると
よわ半交け名まがくあるゆえや。

又「耳我山尔時を雪」降るる。同一本に不時と云はれ
一ここの方ののそ秋の初まると
よわ半交け名まがくあるゆえや。

又「耳我山尔時を雪」降るる。同一本に不時と云はれ
一ここの方ののそ秋の初まると
よわ半交け名まがくあるゆえや。

又「耳我山尔時を雪」降るる。同一本に不時と云はれ
一ここの方ののそ秋の初まると
よわ半交け名まがくあるゆえや。

上總國哥二首

伊多良武等曾與阿我之多波倍思

イタラム等ゾアワカニタハシ。昔ハハガ守方マキク飛ヒの
ヨコウノ方ヘアツクゴト

宇麻具多能

ウマキタノ。和名抄子望多郡。未宇ト互ハほ字ヲ付テハ割之古ハ
祢呂

乃佐左葉能

ノササハノ。嶺等ノ小舟。ノササハ。都由思母能
ノササハ。國海ト又山マ。

奈波汝者故布婆曾母

ナハニハコノ。油トシテモサレ。ヲシテモサレ。吾朱
ノササハ。

宇麻具多能祢呂尔可久里為

ウマキタノ。祢呂。尔。可。久。里。為。防ノ出ニシテハ辰ノ彼カクダ
方ニ成リニハカク。

尔毛久尔乃登保可婆奈我目保里勢牟

ニハクニ。尔。乃。登。保。可。婆。奈。我。目。保。里。勢。牟。今ハハガ守方マキク飛ヒの
ヨコウノ方ヘアツクゴト

多々よめわ。カ目と欲。カッシカノ。和名抄子葛飾郡。如止。都。ハハガ守方マキク飛ヒの
ヨコウノ方ヘアツクゴト

下總國哥四首

可都思加能

カッシカノ。和名抄子葛飾郡。如止。都。ハハガ守方マキク飛ヒの
ヨコウノ方ヘアツクゴト

能手兒奈乎

ノテゴナヲ。麻末。今ハハガ守方マキク飛ヒの
ヨコウノ方ヘアツクゴト

今礼登可聞和礼尔余須等布

イマレトコキケ。和礼。尔。余。須。等。布。今ハハガ守方マキク飛ヒの
ヨコウノ方ヘアツクゴト

麻末乃氏胡奈乎

マシノノシコナヲ。我ハハガ守方マキク飛ヒの
ヨコウノ方ヘアツクゴト

可豆思賀能麻萬能手兒奈我

カヅシカノ。今ハハガ守方マキク飛ヒの
ヨコウノ方ヘアツクゴト

家ハ集中守計の
帳目ハ用

安里之可

アサリノカ。今ハハガ守方マキク飛ヒの
ヨコウノ方ヘアツクゴト

安里之可

かこちりしやうし
トヨも得れり亦多
子我と和敷と
子家と生ハあり
うささきし所
列らと生んて
之よ。

婆 ハハ 是ハ既子身まわ
麻未乃於須比尔 マモノオスヒル 上の後行あれ於思故とけ於
須比ハ疎遠とりよると或人乃

尔保杼里能 ニホドリンノ 冠 カ 可豆思加和世乎 カツシカワセヲ 尔倍須登毛 ニヘストモ 早稲を以て
奉之公ハ本よりして田舎の民戸 ソノカナシキヲトニタテメ
曾能可奈之伎乎 ソノカナシキヲトニタテメ 刀尔多豆米也

母 モ 邦良能乎可尔安波麻伎 モトヨシハナカニカニシキヲトニタテメ 可奈之伎乎 カニシキヲトニタテメ 刀尔多豆米也
彼自とつた古今もまはるまはる
まづしんがの急なげ神でまはるの人の入来るよと忌も凍くうつと
忍が来んよハ戸此命よけまはる内へ入来させんとよのうよいへた下多礼
骨伴能屋能戸能骨夫流尔布奈未尔和家世乎夜里氏伊波布 伴能戸乎六
國廳の新嘗をへ
夫此多りーるん

安能於登世受 ヤスニオトノセ 由可牟古馬母我 ユカムコウバモガ 可都思加乃麻未
乃都藝波思夜麻受 ノツギハシヤマエ 可欲波牟 カヨハム
川中ニ柱を對立するれは横木をゆいす板を長く纏つて流せしは後
いつた大通りの橋を打かすといひりかきむるとハ葛あきりてゆい
われハ馬の後ろよこり
まろくわハ今も思合ふあめ

常陸国哥 十首

或人信の人のよ
うまぞいっへ
こころいひの

筑波祢乃祢 ツクハネノ 祢吕尔可須美 ネロニカスミ 為須宜可提尔 ニスギガテニ
伊伎豆久伎美乎 イキマクヒミ 為 ニ

祢氏夜良左祢 ネチヤラサネ 伊伎豆久伎美乎 イキマクヒミ 為 ニ

いん人かくつた今人何とせうと
伊と教をつたげトのきこづけ
麻佐縁てしつる夫とちま
を思ひうねる男もこい
○為ねてハ

伊波和のやうく
運ありけりあき
とま備よりあつ

さかね
ころち

伊毛我可度伊夜等保曾吉奴
吉奴の佐を言ふ
吉加利の約 都久波夜

麻可久礼奴保刀尔蘇提波布利氏奈
防人のまひ道

筑波祢尔可加奈久和之能祢乃未乎可
能言けしとを真山
まひ道

奈岐和多里南牟安布登波奈思尔
景行天皇紀にお授けりて賞賀を言ふ声
を言ふに候字とて

筑波祢尔曾我比尔美由流
背向 安之保夜麻
安志可流登我毛左

安志可流登我毛左
より八小へ今道十八里計りて二荒山の山
七里をかり定とて七峰を社とて今細の山

祢見延奈久尔
男ハサシともんも魚といふとて
よつとてと女のよめとて

筑波祢乃伊波毛等杼呂尔於都流美豆代尔毛多由良
入る歎く辞ちるま例多し

尔和我
今奉家 於毛波奈久尔
代尔毛ハ代尔也
のま巻五よひつ

筑波祢乃乎氏毛許能母尔
出 毛利敝須惠
猪麻の跡見

波播可毛礼杼母
今むらこともはうのまよれ候つらん
あひぬれ地を山田の麻田りて母之守為裳

多麻曾阿比尔家留
魂のおうらひと豆ふのまひと
よつとて守都置とハれより一言

國守權
田島を荒さぬめと

左其呂毛能
呂毛 乎豆久波祢呂能
助辞 夜麻乃佐吉
山之故

左其呂毛能
山の中をとき野のとき経河に國の退極にがけつし右もとほが言
とりよ同ト山のまき殺すも又もをりて我りて又放し放るるのこ

或人母孫どもと
つん字は泥てと
はる先とて
て後字の根と
て

或人母孫どもと
つん字は泥てと
はる先とて
て後字の根と
て

和須良延許波古曾 和須良延 那乎可家奈波賣 那乎可家奈波賣

乎豆久波乃称吕尔都久多思 乎豆久波乃 安比太欲波 安比太欲波

佐波尔奈利奴乎 佐波尔奈利奴乎 万多称天武可聞 万多称天武可聞

乎都久波乃之氣吉許能麻欲多都登利能自由可汝乎 乎都久波乃之氣吉許能麻欲多都登利能自由可汝乎

見牟 見牟 射 射 左称射良奈久 左称射良奈久

比多知奈流奈左可能宇美乃 比多知奈流奈左可能宇美乃 波多延須礼阿杆可多延世武 波多延須礼阿杆可多延世武

比等未奈乃許等波多由登毛 比等未奈乃許等波多由登毛 波尔思奈能 波尔思奈能 伊思井乃手兒我 伊思井乃手兒我 許登奈多延曾称 許登奈多延曾称

信濃道者伊麻能波里美知 信濃道者伊麻能波里美知 可里婆林尔安思布麻之牟奈 可里婆林尔安思布麻之牟奈

小竹之川村雖足跡破 小竹之川村雖足跡破 久都 久都

今の聖道 今の聖道 元明天皇和銅六年紀 元明天皇和銅六年紀 美濃信濃二 美濃信濃二

國之堺 國之堺 經道險阻 經道險阻 往還艱難仍通吉 往還艱難仍通吉

新治 新治 小竹之川村 小竹之川村 雖足跡破 雖足跡破 久都 久都

久都 久都

久都 久都

信濃國

信濃國

小竹之川村

小竹之川村

雖足跡破

雖足跡破

久都

久都

今の聖道

今の聖道

元明天皇

元明天皇

和銅六年紀

和銅六年紀

美濃信濃二

美濃信濃二

國之堺

國之堺

經道險阻

經道險阻

往還艱難

往還艱難

仍通吉

仍通吉

新治

新治

小竹之川村

小竹之川村

雖足跡破

雖足跡破

久都

久都

今の聖道

今の聖道

元明天皇

元明天皇

和銅六年紀

和銅六年紀

美濃信濃二

美濃信濃二

國之堺

國之堺

經道險阻

經道險阻

往還艱難

往還艱難

仍通吉

仍通吉

新治

新治

小竹之川村

小竹之川村

雖足跡破

雖足跡破

久都

久都

け川ハ常陸下橋
よても刀祢川と
ついでに即ち此
郡より上流
よても大河
ありん

賀美都家野久路保乃祢呂乃ハミツケノクノホノネノ久受葉我多クウケハエガタ

つらの可奈師家兒良尔カナシケラニ伊夜射可里久母イヤサカリクモ

刀祢河伯乃トネカハノ利根リネ可波世毛思良受多々和多里カハセモシラズタタワタリ

奈美尔安布能須ナミニアブノス安敞流伎美可母アハルキミカモ

伊香保呂能夜左可能為提尔イカホロノヤサカノ國人クニノヒト

立一方ハ用々タテヒトハヨウゾウ伊香保呂能夜左可能為提尔イカホロノヤサカノ

自能ジノ安良波アキラハ

路萬代母佐祢乎佐祢氏婆ロマンダイモサネハサネシバ

可美都氣努伊可保乃奴麻尔宇惠古奈宜カミツケヌイカホノヌマニウエコナギ

可久古非牟等夜多祢物得米家武カクコヒムトヤタネモノトミケム

可美都氣努可保夜我奴麻能カミツケヌカホヤガヌマニ

比可波奴禮都追安乎奈多要曾祢ヒカハヌレツアナタエソネ

可美都氣奴伊奈良能奴麻能於保為具左カミツケヌイナラヌマニオホシグサ

日本紀云元と高
と訓ハあり

賀美都家野久路保乃祢呂乃ハミツケノクノホノネノ久受葉我多クウケハエガタ

つらの可奈師家兒良尔カナシケラニ伊夜射可里久母イヤサカリクモ

刀祢河伯乃トネカハノ利根リネ可波世毛思良受多々和多里カハセモシラズタタワタリ

奈美尔安布能須ナミニアブノス安敞流伎美可母アハルキミカモ

伊香保呂能夜左可能為提尔イカホロノヤサカノ國人クニノヒト

立一方ハ用々タテヒトハヨウゾウ伊香保呂能夜左可能為提尔イカホロノヤサカノ

自能ジノ安良波アキラハ

卷九 妻依来西尼神代紀上阿弥播利和栳嗣妹盧豫詞尔豫 許求良米

可母與奈志許佐流良米

阿之我里乃安伎奈乃夜麻尔比古布祢乃斯利比

可志母與

阿之賀利乃和乎可雞夜麻能

豆佐祢母可豆佐可受等母

可頭乃木能

和乎可

許已波故賀多尔

可頭乃木能

和乎可

許已波故賀多尔

可頭乃木能

和乎可

許已波故賀多尔

可頭乃木能

和乎可

許已波故賀多尔

可頭乃木能

和乎可

相摸國譬喻奇三首

足柄山舟本と取

〜の末と取

或後山へ海舟を引

〜の末と取

不老の母と整

へね敷まへか

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

上毛野國譬喻歌一首

伊可保呂乃蘓比乃波里波良和我吉奴尔都伎与良之

思物能乎安是可多延世武

可美都家野安蘓夜麻都豆良

追夜安良牟

我伊波婆

加多波牟は撰り

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

〜の末と取

陸奥國歌 一首

母与多敝登於毛敝婆
 志良登保布 乎尔比多夜麻乃 毛流夜麻能 宇良賀礼
 勢那奈登許波 尔毛我母
 美知乃久能安 太多良未由美波 自伎於伎氏 西良思焉
 伎那婆都良波 可馬可毛
 逐乃加まりとらとて

雜乃奇

武本哥曰美都我
 須受我祢乃
 波由馬宇馬夜能

△今本... 雜乃奇... 標... 人の... 初...
 雜乃奇は相聞換方の外、四時を遊事れ方とて、換乃は... 四時
 集れ初のふけまゝ、あゝ、四時旅おけ遊具挽方をも集りて
 其部てよま、い... 上の國度定り成方のあゝ
 載し... 上げ四五の巻と均しき格う。
 都武賀野尔須受我於等伎許由 可牟思太能等
 能乃和久胡思 殿の若子とげ、も殿の... 和可期師の...
 登我里須良思母 多加の約、ま... 〇... 〇...
 の家よりべ、又郡司國造の家より、ま... 安部郡よ
 一と波河... 伊波太... 之太戸乃止乃... 河國志太郡の郡領の
 家より... 可牟思太... 志太郡 志太の里と上下
 須受我祢乃 須受之祢乃又我人珍之 波由馬宇馬夜能

井石井板井筒井
 水さむ時さいいぬれ
 都乎多麻倍奈伊毛我多太手欲
 許乃河伯尔
 礼毛安礼毛余知与曾母氏流

今人万吕哥集曰等保
 久之氏又曰安由賣
 久路古麻

をばはなす人ハけまゝに食を浴と公武令えゆ又まゝにせむか食
 時もあらざりてひそかたふ智るをいそせしむを問をまかりしはれど
 こゝのめりあふひりまはりの女の 都追美井乃 筒井といふも
 水さむ時さいいぬれふらゝしきもゆ 直に妹がよまわ

コノカハニ けいへんをいふて以 アサナアラフコ 初に葉流ナ
 許乃河伯尔 さいづ上の本ふまゝし 安佐奈安良布兒 女子

レモアレモ 余知与曾母氏流 今本知余乎とあふはりなり古本
 礼毛安礼毛

摩臂苦奴知野伊徒姑播茂伊徒姑池てハ貴人ハ貴人と共奴ハ奴と共
 共の上の共を累さ下の毛を流さ初より濁ると知ハ豆礼の物豆も
 共を流さ初より濁ると知ハ豆礼の物豆も
 伊低兒多婆里尔 尼を流す通ハ一も

手兒女の名いよま
 多とのよまはと
 久路古麻

今人万吕哥集曰等保
 久之氏又曰安由賣
 久路古麻

トホククノ 麻久能 久毛為尔見由流伊毛我敵尔
 麻等保久能 久毛為尔見由流伊毛我敵尔

イツカイタラムアエメアガコ
 伊都可伊多良武安由賣安我古麻

テゴノヨビサカ
 安上麻治乃手兒乃欲妣左賀

コエガネテ
 古要我祢氏

ヤドリハナシ
 夜麻尔可祢牟毛夜孖里波奈之尔

ワガエクミチニ
 宇良毛奈久 和我由久美知尔安乎夜宜乃波里氏

モノモヒヒ
 多氏礼婆 物能毛比豆都母

道行去毛青山手振放見者てハ我がてハ孫
 ちと年月のうつしを懸つる又妹をちとちと懸つる

伎波都久乃乎加能久君美良

和名抄は薤と於保美良薤と古美良といふ。久君を田舎に古といふ。

野もあらつむの古まにかなるる

和礼都賣杼故尔毛美多奈布

上り帯はこれさねるや

西奈等都麻佐祢

美奈刀能也

安之我奈可那流多麻古須氣

太思尔

可利己和我西古等許乃

伊毛奈呂我

都可布河伯豆乃

毛

加多里與良

久佐可氣乃

安努努奈

根を乃

安努努奈

由可武等波里之美知阿努努波由加受氏阿

良久佐太知奴

け下小和奴

安努努奈

草陰荒蘭

安努努奈

妹名根

安努努奈

由可武等波里之美知阿努努波由加受氏阿

良久佐太知奴

け下小和奴

安努努奈

草陰荒蘭

安努努奈

妹名根

安努努奈

由可武等波里之美知阿努努波由加受氏阿

良久佐太知奴

け下小和奴

安努努奈

草陰荒蘭

安努努奈

妹名根

安努努奈

都可布の妹と云ふ
け下小和奴と云ふ
草陰荒蘭と云ふ
妹名根と云ふ

草陰荒蘭と云ふ
妹名根と云ふ
由可武等波里之美知阿努努波由加受氏阿
良久佐太知奴と云ふ
け下小和奴と云ふ

比目とを泥よ
次まやとろく
もあれ泥ま比
治のさるわ自ハ
いの濁るされば
なす

波奈知良布己能牟可都乎乃ハナチラフコノムカツラノ南峯乎那能乎能ナナノナノ今上徳イマノトク

比目尔都久佐麻提ヒメニツクサマデ目今本自と徳佐ハ一カメイマノミナトトクサハヒト

伎美我与母賀母キミガヨモガモ紐つく代まで若が代われヒモツクイヘノカガノイハレ

思路多倍乃許呂母能素低乎シロタヘノコロモノソデヲニクアラガヨ袖を纏とつしうスエヲカケテハマシ

麻久良我欲マクラガヨて漢言久良我ハ下徳のらうとつしうテカンコノキウラガハゲノトツシウ安麻ハ海人をいづと又け末小麻久ヤスマハウミノヒトヲイフコトナラバマシクニ

良我の許我能和多利乃可良加治乃とよあキウラガノキウラガハゲノトツシウ安麻ハ海人をいづと又け末小麻久ヤスマハウミノヒトヲイフコトナラバマシクニ

安麻許伎又見由奈ヤスマキウラガハゲノトツシウて漢言久良我ハ下徳のらうとつしうテカンコノキウラガハゲノトツシウ安麻ハ海人をいづと又け末小麻久ヤスマハウミノヒトヲイフコトナラバマシクニ

美多都奈由米ミタツナユメ

乎久佐乎等コノサキコノサキ所の男シノオノヲ正具佐受家乎等タシメテササケテコノサキ同所の次丁ドウソノツグチ

布祢乃フネノ今本を乎とせイマノホンヲコノサキトシハ誤ハアヤマシ潮舟ハ海をの指ウシボネハウミヲササグ那良敵氏ナラベテ

美礼婆ミレバ海屋ハ舟も多ウミヤハフネモオホシ並て居ナラベテ乎具佐可知馬利コノサキササケテコノサキ正丁タシメテ

佐奈都良能サナツラノ神名式カミナヅケ常陸國那賀郡酒烈磯崎神社トシマノクニナカノ郡サケノサキノイソノサキノヤシノヤシノヤシ乎可尔安波麻コノサキササケテコノサキ

伎キ可奈之伎我コノサキササケテコノサキ古麻波多具等コノサキササケテコノサキ

毛モ多具利オホサキの利の約オホサキノキ波素登毛波自ハハツトモハジ

則放天班馬使伏甲ノボリテアマツマシマシ和波素登毛波自ハハツトモハジ

於毛思路伎オノサキ野乎婆奈夜吉曾布留ノサキハハツトモハジ

野乎婆奈夜吉曾布留ノサキハハツトモハジ

野乎婆奈夜吉曾布留ノサキハハツトモハジ

今上徳一十七
トワサマの男

と中男廿一り六
十まの男を
丁六十一り五まで
の男と次丁より
二集上丁より
ハけ三丁助丁がハ
れ中男次丁と
なり

久佐尔仁比久左麻自利於非婆於布流我尔我尔ハ願スルガニ

可是乃等能カゼノトノ登抱吉和伎母賀吉西斯伎奴登抱吉ハトホキワキモガキセシキヌ

麻乎引干妹名根之佐りきせせん麻乎引干妹名根之佐りきせせん多母登乃久太利麻欲比伎尔多母登乃久太利麻欲比伎尔

家利家利衣於伎の末乃衣於伎の末乃衣於伎の末乃衣於伎の末乃

尔波尔多都尔波尔多都安佐提古夫須麻安佐提古夫須麻

比太尔比太尔都麻余之許西祢都麻余之許西祢

古非思家婆伎麻世和我勢古可伎都楊疑古非思家婆伎麻世和我勢古可伎都楊疑

多知麻多牟多知麻多牟

宇都世美能宇都世美能夜蘓許登乃敵波夜蘓許登乃敵波

久等母安良蘓比可祢氏安乎許登奈須那久等母安良蘓比可祢氏安乎許登奈須那

宇知日佐須宇知日佐須美夜能和我世波美夜能和我世波

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

妻常言長柄妻常言長柄安佐提古夫須麻安佐提古夫須麻

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

△△相聞の標相聞の標

麻登女乃比射麻久其登尔

垂仁天皇紀。后の御膳を枕し、其の
ねましけしきく奏娘が人の膝上を枕せん

安乎和須良須奈

奈势能古夜

名夫の子と云ふに
男女ともいふ

等里乃乎加拜志

比の女、耻、路志、
群、げをうけ、中

奈可太平礼安乎

礼安乎、礼、奈久與、
中、衆

奈我を

伊祢都氣波

伊久豆君麻氏尔
可加流安我手乎

和名抄、輝、何、加、手、足、
折裂也、り、是、

胡我

田舎、り、敵、り、比、き、家、ハ、郡、可、た、ら、う、り、上、
和久子ハ、り、き、子、の、加、裁、約、久、なり、
等里氏奈氣可武

許余比毛可等能乃和久

今、知、ト、ノ、
ワ、ク

波都

於志氏伊奈等伊祢
波都、可、祢、好、て、す、い、く

多礼曾許能屋能戸於曾夫流

記、六、千、矛、神、の、中、ち、遠、登、責、能、
那須夜伊多斗遠游曾夫良比和

那須夜三、
佐那須、い、い、
三、い、い、
三、い、い、

氏伊波布許能戸乎

十一月、公、元、新、嘗、祭、り、
伊波、布、許、能、戸、乎、
ハ、國、庭、
二、十、日、

の里長あまの原さそ妻ののい
かんさす、時、あ、り、の、よ、あ、り、上、よ、む、
ま、あ、り、さ、い、い、

安是登伊敬可佐宿尔安波奈久

何、り、り、り、
真、日、久

礼氏

と、真、り、さ、り、
與、比、奈、波、許、奈、尔、安、氣、奴、思、太、久、流

善く和らげ奉りておぼゆる朝と暮らふまよおまじきしてす
ちわく女のうらなひ、初ねちちて起ての夜もいひいひ

考くよひ奈はよひはくあぬぬハ
ひけぬ。思太ハ思多も畧々ナ。

安志比奇乃夜未佐波妣登乃。山澤と人々と將下。又まひり

比登佐波尔麻奈登伊布兒我。比登佐波尔麻奈登伊布兒我。母の我はまら子で

乃大領乃未名牟春女止以戸。乃大領乃未名牟春女止以戸。乃大領乃未名牟春女止以戸。乃大領乃未名牟春女止以戸。

安夜尔可奈思佐。安夜尔可奈思佐。安夜尔可奈思佐。安夜尔可奈思佐。

麻等保久能野尔毛安波奈武。已許呂奈久佐刀乃美奈

可爾。安敞流世奈可母。安敞流世奈可母。安敞流世奈可母。安敞流世奈可母。

比等其等乃之氣吉爾余里氏麻乎其母能。比等其等乃之氣吉爾余里氏麻乎其母能。比等其等乃之氣吉爾余里氏麻乎其母能。

於夜自麻久良波。於夜自麻久良波。於夜自麻久良波。於夜自麻久良波。

麻可自夜毛。麻可自夜毛。麻可自夜毛。麻可自夜毛。

巨麻尔思吉比毛登伎佐悉氏奴流我倍尔。巨麻尔思吉比毛登伎佐悉氏奴流我倍尔。巨麻尔思吉比毛登伎佐悉氏奴流我倍尔。

安杼世呂登可母。安杼世呂登可母。安杼世呂登可母。安杼世呂登可母。

安夜尔可奈之伎。安夜尔可奈之伎。安夜尔可奈之伎。安夜尔可奈之伎。

麻可奈思美奴礼婆許登尔豆。麻可奈思美奴礼婆許登尔豆。麻可奈思美奴礼婆許登尔豆。麻可奈思美奴礼婆許登尔豆。

已許呂乃緒呂尔。已許呂乃緒呂尔。已許呂乃緒呂尔。已許呂乃緒呂尔。

能里氏可奈思母。能里氏可奈思母。能里氏可奈思母。能里氏可奈思母。

於久夜麻能。真木乃伊多度乎。等杼登之氏。於久夜麻能。真木乃伊多度乎。等杼登之氏。於久夜麻能。真木乃伊多度乎。等杼登之氏。

上る屋敷の地を
かゝる衣あわぶぬ
ちいほい

和波

雜書子寫と云
てそのもあり或
人地ももあつせ
ふつといふ

或人好行好来を
ゆきと訓
るその意も

右の好行はゆ
りといふ
とも信れられ
人のいふ
るういへ
△注は稀本朝臣
人麻呂哥集出也

次の字とむの於

和我が比良可武爾伊利伎氏奈左

祢入来る履一め祢くよよひくおしむ伊射祢志米刀羅

夜麻杼里乃乎呂能波都乎尔

秀つ男が危てさまらわさかふの魏といふ代は山雞をういへつざり小
尾の方より浸をぬらわらふぶどうのついでいひゆく一語かよみつゝん既後

美許曾奈尔與曾利雞米

可賀美可家刀奈布倍

由布悉尔毛許余比登乃良路

波阿是曾母許與此與斯呂伎麻左奴

安比見氏波千等世夜伊奴流伊奈乎加母

也思加毛布伎美麻知我氏尔

思麻良久波祢都追母安良牟乎於米能未尔

奈見要都追安乎祢思奈久流

受といひ且面ハ面親と異きいづの次の字は母尔とす

今作この句を伊米能未尔とあまは

於米加波祢

於米加波祢

於米加波祢

於米加波祢

於米加波祢

於米加波祢

於米加波祢

由とるは於母の保
ちの所す

比登豆麻等安是可曾乎伊波牟
シカラバカト
志可良婆加刀
ナリノキヌヲカリテキナハモ
他妻を可
奈里乃伎奴乎可里氏伎奈波毛
おといとんきつと隣の衣を借

左努夜麻尔
直子野山よよい
宇都也乎能登乃
打よ芥の香こ
等抱可騰母
トホカドモ
ネモトカコロガオモニエツ
留
道なきくあれ
君を夜かくりりんとて
妹が面影よそえ
を於由子保るぬ
上の子まといつ
ウエタケノ植ハ生立くるるとり記大河原の宇
惠具佐日本紀ふらそこのことと望まう

伊豆思牟伎氏可伊毛我奈藝可牟
いづしむキテカ
イモガナギカム
の山びよがままびつがむい
妹が氣可牟
伊低氏伊奈婆
防ふ生立
美
風よ末の
こはるこぞりくねほさ
伊低氏伊奈婆
時と見ゆ

古非都追母乎良牟等須禮杼遊布麻夜萬可久禮之伎美
コヒツハモヲラムトスレドユフニヤニカクレシキミ
乎於母比可祢都毛
卷五 旅の終ふ不慮惠八趾不慮登為杼木路野山越去之
公之所念良国とては遂は回ちとれとての天をふは

宇倍兒奈波
ウベコナバ
けちの末
和奴尔故布奈毛
ワヌニコフナモ
和奴ハ先われらて
通へば又けち良を奈といつても奈ハ乃トハ良ハ居トハ良ハ且奈と良
多刀都久能
タトツクノ
五月よよ多かといふ
又於我の本のや終

今本藝とけと訓
一古へ女とく
け奴をばあ
やつこのうら
まへ
巻五
子ぬ
おこ
我まの

け奴をばあ
やつこのうら
まへ
巻五
子ぬ
おこ
我まの

このく赤人の名を
を付てお交つ
ね必きりすとまふ
いふべきこと
○都が古の
守のくせ
らぬ人都是我
我といひて後世の
をといひては本の
いやつきづくつ
かこころよく
みたり
△或本奇曰努我奈
由乃敝波之由け
下可の字は
たがれけど
りなれりて
れり

都我とカ我と古のめかつのもふせ
も例べしは世の事よ唱ふ古へ多く二つの帳字を用い
へユケバ。流去者之奴は奈と良とて良敵ナ
敝由家婆。約は礼くまひ月日を流るる月日とさ
妹らハ我の流るるに列し流るる月日の流れて来りける
ぬまはとて二の妹が文をりて来てはるるに

安都麻道乃手兒乃欲婢佐可
古要氏伊奈婆安礼
安波乃敝思太毛

婆古非牟奈能知波安比奴登母
古要氏伊奈婆安礼
又圍三沙吳居諸尔居舟之

等保斯等布
故奈乃思良祢尔
奈尔已曾與佐礼

安波乃敝思太毛
安波乃敝思太毛
安波乃敝思太毛
安波乃敝思太毛

此稱ハ本向
てす人のま
く
く

安可見夜麻久佐祢可利曾悉安波須賀倍
安良

布伊毛之安夜尔可奈之毛
可奈之伊毛我多
可奈之伊毛我多
可奈之伊毛我多

麻久良波奈礼欲太知伎努可母
可奈之伊毛我多
可奈之伊毛我多
可奈之伊毛我多

我久良波奈礼欲太知伎努可母
可奈之伊毛我多
可奈之伊毛我多
可奈之伊毛我多

伊能 伊爾 伊母 伊乃 伊波 伊受 伊雨 伊白

△注 掃本朝臣人 麻呂哥葉中出見 上已注也と云ふ 卷十三 掃本朝臣人 磨哥三首とて 珠 衣乃狹藍左謂洗 家妹尔物不語來 而思金津裳 卷十三 伊母 伊乃 伊波 伊受 伊雨 伊白 卷十三 伊母 伊乃 伊波 伊受 伊雨 伊白

安利伎奴乃 冠 佐惠佐惠之豆美 あり衣は玉衣のゆへにさういふ 佐恵佐恵と云ふ

比具流之母 麻呂秋と云ふ 載と云ふ 八人万馬集も載と云ふ け撰と云ふ 八人万馬集も載と云ふ け撰と云ふ

可良許呂毛須頼乃字知可倍 喬の打更ハ合カのちを序申す ありと云ふ 八人万馬集も載と云ふ け撰と云ふ

安波彌孺毛家思吉已許呂乎 安我毛波奈久尔 ありと云ふ 八人万馬集も載と云ふ け撰と云ふ

比流等家波等家奈敝比毛乃 ありと云ふ 八人万馬集も載と云ふ け撰と云ふ

須流 ありと云ふ 八人万馬集も載と云ふ け撰と云ふ

和賀西奈尔阿比與流等可毛欲流等家也 ありと云ふ 八人万馬集も載と云ふ け撰と云ふ

安左乎良乎 遠家尔布須左尔 ありと云ふ 八人万馬集も載と云ふ け撰と云ふ

宇麻受登毛安須伎西佐米也 ありと云ふ 八人万馬集も載と云ふ け撰と云ふ

伊射西乎騰許尔 ありと云ふ 八人万馬集も載と云ふ け撰と云ふ

都流伎多知 身尔素布伊母乎 等里見我 ありと云ふ 八人万馬集も載と云ふ け撰と云ふ

哭乎曾奈伎都流手兒尔安良奈久尔 ありと云ふ 八人万馬集も載と云ふ け撰と云ふ

上よふすきわうま すくもいひまきく らめやとりてまも ひりてとてハ衣と いひてとていひて いひまきやまの仍 くらめやとて麻衣と くらめやとて

伊能 伊爾 伊母 伊乃 伊波 伊受 伊雨 伊白 伊能 伊爾 伊母 伊乃 伊波 伊受 伊雨 伊白 伊能 伊爾 伊母 伊乃 伊波 伊受 伊雨 伊白 伊能 伊爾 伊母 伊乃 伊波 伊受 伊雨 伊白

けふの言は初め
濁らるるに
累ももろのそと
累ももろのそと
通はす時同きと
成りしつ

凡玉のまをいひ
まをいひ
まのおふれ
まをいひ
まをいひ
まをいひ
まをいひ

おんまをいひ
おんまをいひ
おんまをいひ
おんまをいひ
おんまをいひ
おんまをいひ
おんまをいひ
おんまをいひ

をいひ、脱つてゆく氏子ハ果の子よそえハ初をいひ、かくのや
いひ、又よそえにぬていひ、或ハ悔名もせしとるるうぶあふ
てん

可奈思伊毛乎 カシイモヲ 由豆加奈倍麻伎 ユヅカナベマキ

可奈思伊毛乎 カシイモヲ 由豆加奈倍麻伎 ユヅカナベマキ 母許呂乎乃 モゴロフノ

伊夜可多麻斯尔 イヤカタマシニ 宿莫奈那里尔思 ヤクモナレリス

安豆左由美須惠尔多麻末吉可久須酒曾 アヅサユミスエニタマキカクスバゲ

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

于布之毛等 オフモト 能良奴伊毛我名可多尔伊氏牟 ノラヌイモイナカタルイシム

鮮夫とも改めつ
美しきま
告すつ
告すつ
告すつ
告すつ
告すつ

△柿本朝臣人麻呂
哥集出也

△美子
美子と端とす
美子と端とす
美子と端とす

舊の用へし
今令傳
集

△或本哥白於曾波
也母は美乎思麻多
武軍可都乎能思比
乃佐妻太能登書波
須具登母と成

まま
本の
安豆

安豆左由美冠欲良能夜麻邊能

可久尔歳を同きそ伊毛呂乎多氏天上のきにはふ本朝の林お波

左祢度波良布母よらふ

安都佐由美冠須惠波余里祢牟麻左可許曾上よ比等

目乎於保美奈乎汝を波思尔於家礼汝を端の方よわられ

揚奈疑許曾伎礼婆伴要須礼孝余能比等乃古非尔

思奈武乎伊可爾世余等曾母の人

乎夜麻田乃伊悉能都追美尔左須揚奈疑根

奈里毛奈良受毛奈等布多里波母

許曾麻多賣牟可都乎能四比乃

安比波多家波自推の小枝

兒毛知夜麻和可加敝流氏能毛美都麻氏巻

宿毛等和波毛布汝波安舒可毛布

何し思

下

下

下

大和神の言と五十
谷川十の言と
上のあつた又巻
一の河上のゆめ石
あつたあつたのべ
とす

伊波保呂乃、上の上毛野國より伊香保呂触。菟比乃波里波良、上の
野乃もさ系といつて、そののち松原のいづれに岨野の小松原まで、

伊何保ち、かくて次のちれ多知婆奈乃といつても、あつて武蔵の橋掛郡
の外に、あつた、武蔵のあつた、武蔵のあつた、武蔵のあつた、武蔵のあつた、

也、右のいづれに岨、武蔵のあつた、武蔵のあつた、武蔵のあつた、武蔵のあつた、

久毛、武蔵のあつた、武蔵のあつた、武蔵のあつた、武蔵のあつた、

多知婆奈乃、右のいづれに岨、武蔵のあつた、武蔵のあつた、武蔵のあつた、

於毛布奈牟、己許呂宇都久志伊氏安礼波

伊可奈、ゆめ石、

可波加美能、河の上のあつた、武蔵のあつた、武蔵のあつた、武蔵のあつた、

安也尔阿夜尔、入立て、

尔氏尔思可、入立て、

宇奈波良乃、日本紀に河上とあり、

根夜波良古須氣、

阿礼波、古今のあつた、

伎美波和須良酒、志のあつた、

和須流禮夜、

乎可尔與世、

和我可流加夜能佐祢加夜能、

真蓋、

和禮、

和禮、

和禮、

和禮、

和禮、

和禮、

やとりつめちをさねとて 麻許等奈其夜波 下巻 悉矣りやがヤ 祢
佐履と文且末のウヘカ ふゆれどもとよみ

呂等敝奈香母 方々にはやうはねむいそをくつきをさるる

牟良佐伎波根乎可母乎布流 ほろも八根のこしをさるる

比等乃兒能宇良我奈之家乎 心よ流く

祢乎遠敝奈文尔 卷九 正月より春は来りつがくつ根を打つ多

努之岐乎倍米 卷五 是を追和りて春裏之樂終者

梅花手折乎伎都追遊尔可有六樂 祝詞小祢

安波乎呂能 安房國の岳うへ 乎呂田尔於波流 岳の麓に田

多波美豆良 むらうは同ト

今本の初は延

我の通と良と通
二例は延

比可婆奴流奴留安乎許登奈多延 今本は延

和我目豆麻 目豆 比等波佐久礼杼安良多麻能 今本は安

和波佐可流我倍 流我の約良

安齋可我多 記す 卷四 神名式より其伊勢の志 志保悲乃由

多尔 潮千ハ海上の 於毛敝良

後撰集は春日さ
はふゆのうらむの
うらむのうらむの
うらむのうらむの
うらむのうらむの

婆ハハウケラガハナノイロニデメヤモ。地の根とていふ物語と
す末の聲とていふ歌

波ハ流ル敷ケ左サ久ク布フ治ヂ能ネ宇ウ良ラ兼ケン乃ノ。序コトウラヤスニ。うらや。左サ奴ヌ

流ル夜ヤ曾ソウ奈ネ伎キ兒コ呂ロ乎ハ之シ毛モ倍ヘ婆バ。おとこいばの

宇ウ知チ比ヒ左サ敷ス。冠クラ蘇ソ今イマ本ホン初ハツメと。美ミ夜ヤ能ネ瀬ネ河カ伯ハク能ネ可カ保ホ婆ハハ奈ナ能ネ。

孤コ悲ヒ天テン香カ眠メン良ラ武ブ伎キ曾ソウ母モ許コ余ヨ比ヒ毛モ。おとこのむらさ

卷七の同とせし。鳥花とていふ。おとこのむらさけをいふや。おとこのむらさけをいふや。

尔ニ比ヒ牟ム路ロ能ネ許コト騰トウ伎キ尔ニ伊イ多タ礼レ婆バ。新室の言侍の附。成。おとこのむらさけをいふや。

新室踏フミ静シヅ子コ之シ也ヤ。波ハ太タ須ス酒ス伎キ。冠穗ホ尔ニ氏シ之シ伎キ美ミ我ガ見ミ延ニ奴ヌ。

已コ能ネ許コト呂ロ。妹イモが家イヘを新ニし。おとこのむらさけをいふや。

多タ尔ニ世セ婆バ美ミ弥メ牟ム尔ニ波ハ比ヒ多タ流ル多タ麻マ可カ豆ズ良ラ多タ延ニ武ブ能ネ已コ。

許コト呂ロ我ガ母モ波ハ奈ネ久ク爾ニ。巻四山高谷蔓マンとて志シとて。巻五丹波路の大い。

芝シ付ツキ能ネ御ミ宇ウ良ラ左サ伎キ奈ネ流ル。相摸三浦ミウラ知名抄チカナキウチとて今イマも。根ネ都ツ吉キ。

具グ佐サ。安ア比ヒ見ミ受ウケ安ア良ラ婆バ安ア礼レ古コ比ヒ米メ夜ヤ。

母モ。おとこのむらさけをいふや。

安ア比ヒ見ミ受ウケ安ア良ラ婆バ安ア礼レ古コ比ヒ米メ夜ヤ。

母モ。おとこのむらさけをいふや。

之奴波西

對馬能祢防人ハア波之多久毛今本具トモハ久安良奈布ヲ

可牟能祢尔多奈婢久君毛乎見都追思怒波

阿是西呂等許

伊波能倍尔伊賀可流久毛能

已呂尔能里氏許已婆可那之家

思良久毛能多要尔之伊毛乎阿是西呂等

多波布伊射祢之賣刀良

麻久母伊都藝可奴麻豆久比等登於多波布伊射祢志刀羅

奈我波伴尔已良例安波由久

安乎久毛能冠伊氏來和伎母兒

而由可武

△今本トク於毛可多能和須礼牟之太波於抱野呂尔多奈婢久君母乎見

都追思努波牟久尔波布利四ウハ祢尔多都久毛乎五ウハ見都追之努波西久

於波野呂上之志志努波牟志努波牟

志努波牟志努波牟

志努波牟志努波牟

志努波牟志努波牟

古ハ地をばらるる者
シラクモノ。タエニシイモヲ。白キハ
コロニノリテ。コハ。バカナシケ。ハハクモ
イハノヘニイガ、ルクモノ。此ニウリトハ。波牟
今本ト可努麻豆久比等曾於

波牟伊射祢志刀羅

阿是西呂等許

已呂尔能里氏許已婆可那之家

伊波能倍尔伊賀可流久毛能

多波布伊射祢之賣刀良

麻久母伊都藝可奴麻豆久比等登於多波布伊射祢志刀羅

奈我波伴尔已良例安波由久

安乎久毛能冠伊氏來和伎母兒

而由可武

△今本トク於毛可多能和須礼牟之太波於抱野呂尔多奈婢久君母乎見

都追思努波牟久尔波布利四ウハ祢尔多都久毛乎五ウハ見都追之努波西久

於波野呂上之志志努波牟志努波牟

志努波牟志努波牟

志努波牟志努波牟

志努波牟志努波牟

志努波牟志努波牟

於曾のみや人、於
曾の山君、
むねをこころせりか
もが曾より、
引おろし、
ていふ、
上、
は、
は、
は、

可良須等布、
於保乎曾行里能、
乎曾ハ常ニ曾

吾乎於毛保寒菟、
吾乎於毛保寒菟、
と手都、
麻佐低尔毛、
伎麻左奴伎美乎、
許

呂久等曾奈久、
呂久等曾奈久、
久多豆乃麻登保久於毛保由、
佐可故要氏阿倍乃田能毛尔、
後河のふら、
川の東、
卷十四

伎曾許曾波、
兒呂等左宿之香久毛能宇倍由奈伎由、
久多豆乃麻登保久於毛保由、
佐可故要氏阿倍乃田能毛尔、
後河のふら、
川の東、
卷十四

爲流多豆乃、
等毛思吉伎美波、
安須左倍母我毛、
麻乎其母能布能未知可久氏、
安波奈敞

須流、
水久君野介、
於伎都麻可母能奈氣伎曾和我、
可母能波抱能須、
兒呂我宇倍介許等於呂波敞而、
驚くと於呂

可母能波抱能須、
兒呂我宇倍介許等於呂波敞而、
驚くと於呂

可母能波抱能須、
兒呂我宇倍介許等於呂波敞而、
驚くと於呂

可母能波抱能須、
兒呂我宇倍介許等於呂波敞而、
驚くと於呂

野、
又、
○、
於呂波敞、

可母能波抱能須、
兒呂我宇倍介許等於呂波敞而、
驚くと於呂

下心は...
男の事のかく...
いいて...
ついで...
い...
おの...
おの...

集...
の...
八十...
...
...
...
...

ろぎ...
伊麻太宿奈布母

伊麻太宿奈布母

奴麻布多都。可欲波等里我栖

安我許古呂布多由久奈母

等奈與母波里曾檢

於吉介須毛。乎加母乃母己呂

也左可孖利

伊伎豆久伊毛乎於伎氏伎努可母

防人の列

水都等利乃。多々武與曾比介

能良介。毛乃伊波受伎介氏。於毛比可祢都

毛。等夜乃野介。乎佐藝檢良波里

乎佐乎佐毛

祢奈蔽古由惠介波伴介許呂波要

左乎思鹿能布須也久草無良見要受等母

兒呂我可

奈門欲由可久之要思毛

...

用...
...

伊可奈流勢奈可和我理許武等伊布

久敞胡之介

馬塞の籬の上二二句はて上句と

武藝波武古馬

能波都波都介

○古字馬とつれど字ハ術字ハ、此或本又圈五二句

安比見之兒良之安夜介可奈思母

廣橋波波かううト

比呂波之乎

比呂波之乎。廣橋波波かううト

宇馬古思我祢氏已許呂能未伊母我理夜

伊母我理夜

氏和波已許介思天

止在て、吾此節

安受乃字敞介古馬乎都奈吉氏

あずい節塞して四のののへて

安夜抱可等

危くつれどもこたし

伊吉介和我須流

いさか合やう枕まばいさのそ

左和多里能

左和多里能。不の名之波河も此

手兒介伊由伎安比

手兒介伊由伎安比

安可胡麻我

安可胡麻我。可とちうは

許等登波受伎奴

許等登波受伎奴。そのものつで

已許呂伊多

已許呂伊多。依は志良の物

安我毛布伊毛我伊敞乃安多里

安我毛布伊毛我伊敞乃安多里

可聞

可聞。さう遠く

武路我夜乃都留能都追美乃

武路我夜乃都留能都追美乃

△或本母曰字麻
勢胡之字伎波武
古麻能波都波都
介、仁必波多布礼
之、古呂之可奈思
母、此字麻勢も同じ
或本發句曰字波
夜之介、古麻乎波
左佐氣、ひよ小太の
尾さ中へこのきれ
走よりてまげも
せんりちりて立
たぬのん、上の依
は志良の物、下の夫
は世河の物、

つげ之、次も月分
あり、此の句は
左及、二も亦さ
て並奉らんをほ
未は日、とて
と或本と互にそ
と持、ちり
持考てかえも奉
べうり、
○古本の或本云、安
受信可良古麻乃
由胡能須安也波
カ文比登豆麻古
呂采麻由可西良
布母、これ月分
のつぎ、遠へ
の、此のつぎ、
次、二も亦さ
受信可良、を我
か、ひよ、ちり、
そ、は、殊、

伊可奈流勢奈可和我理許武等伊布
久敞胡之介 馬塞の籬の上二二句はて上句と
能波都波都介 ○古字馬とつれど字ハ術字ハ、此或本又圈五二句
安比見之兒良之安夜介可奈思母 廣橋波波かううト
比呂波之乎 比呂波之乎。廣橋波波かううト
宇馬古思我祢氏已許呂能未伊母我理夜 伊母我理夜
氏和波已許介思天 止在て、吾此節
安受乃字敞介古馬乎都奈吉氏 あずい節塞して四のののへて
安夜抱可等 危くつれどもこたし
伊吉介和我須流 いさか合やう枕まばいさのそ
左和多里能 左和多里能。不の名之波河も此
手兒介伊由伎安比 手兒介伊由伎安比
安可胡麻我 安可胡麻我。可とちうは
許等登波受伎奴 許等登波受伎奴。そのものつで
已許呂伊多 已許呂伊多。依は志良の物
安我毛布伊毛我伊敞乃安多里 安我毛布伊毛我伊敞乃安多里
可聞 可聞。さう遠く
武路我夜乃都留能都追美乃 武路我夜乃都留能都追美乃

ほふまの八あつ下
孫のこゝろど必
ふまのこゝろど
くす

ナリヌガニ 那利奴賀余
此のころ母をたてて孫をたて
ぬのふまのこゝろど

古呂波伊故母伊未太年那久余
阿須可河伯
此のころ母をたてて孫をたて

之良受思天 勢奈那登布多理左宿而久也思
之多余其礼留乎
此のころ母をたてて孫をたて

母安須可河伯 世久登之里世波安麻多欲
世久登之里世波安麻多欲
此のころ母をたてて孫をたて

母為祢氏已麻思乎世久得四里世波
奈乎麻都等西
此のころ母をたてて孫をたて

安乎揚木能波良路河波刀余
多知度奈良須母
此のころ母をたてて孫をたて

美度波久未受 多知度奈良須母
多知度奈良須母
此のころ母をたてて孫をたて

阿知乃須年 須沙能伊利江乃
此のころ母をたてて孫をたて

許母理沼乃安奈伊伎豆加思
此のころ母をたてて孫をたて

美受比佐余指天
此のころ母をたてて孫をたて

奈流世呂余 木都能余須奈須
此のころ母をたてて孫をたて

伊等能伎提 可奈思家世呂余比等佐敝余
此のころ母をたてて孫をたて

須母
此のころ母をたてて孫をたて

多由比我多 志保彌知和多流伊豆由可母
此のころ母をたてて孫をたて

加奈之伎世呂我和賀利可欲波年
此のころ母をたてて孫をたて

於志氏伊奈等伊祢波都可祢杼
此のころ母をたてて孫をたて

此のころ母をたてて孫をたて

此のころ母をたてて孫をたて

此のころ母をたてて孫をたて

此のころ母をたてて孫をたて

此のころ母をたてて孫をたて

どうも... 伊多夫良思毛與卷四
伊多夫良思毛與甚振

浪し... 伎曾比登里宿而

阿遲可麻能 可多余左久奈美

比良湍介母

比毛登久毛能可加奈思家乎於吉氏

麻都我宇良介 佐和惠宇良太知

下二子... 伊の物の...

麻比等其等 於毛抱須奈母呂 和賀母

抱乃須毛

安治可麻能可家能水奈刀介伊流思保乃

許氏多家久毛可 伊里氏祢麻久母

伊毛我奴流等許乃安多理介伊波久具留

水都爾母我毛與伊里氏禰未久母

麻久良我乃 許我能和多利乃可良加治乃

加治

ほのぢかろろ
よみかまき
ほのぢかろろ
よむ

八月也月言あ、を、可良か作、も、ふを思ひ、糸於ふ、一本、を他、か作、し、あ、
 一、よ、手、之、二、体、木、を、係、し、て、輪、と、ら、な、き、力、は、よ、う、ま、し、一、在、り、出、立、お、り、し、
 オト、ゴ、カ、シ、モ、ヨ、（う、ち、の、ま、を、） ネ、ナ、ヘ、コ、ユ、エ、ニ、（ね、せ、ぬ、妹、）
 於、登、太、可、思、母、奈、（人、を、た、た、し、） 宿、莫、敵、兒、由、惠、介、（ぶ、が、し、と、）

シ、ホ、ブ、ネ、（上、の、ま、を、ね、の、わ、り、と、） 八、湊、又、い、つ、て、ふ、と、す、せ、並、一、を、
 思、保、夫、祢、能、（い、ち、だ、ん、が、） 於、可、礼、婆、可、奈、之、（一、柱、の、中、の、持、つ、て、ほ、ま、さ、と、） この

サ、ネ、ツ、レ、バ、（よ、う、ま、い、て、ま、い、） ヒ、ト、ゴ、ト、シ、ケ、レ、ナ、ヲ、ド、カ、
 佐、宿、豆、礼、婆、（と、ね、つ、ま、い、ち、） 比、登、其、等、思、氣、志、那、乎、杼、可、
 モ、シ、ム、（わ、ら、い、せ、ん、之、手、を、係、し、不、ろ、も、い、つ、た、り、と、）

モ、シ、ム、（わ、ら、い、せ、ん、之、手、を、係、し、不、ろ、も、い、つ、た、り、と、）
 母、思、武、（て、ふ、が、お、り、一、〇、思、ハ、世、と、通、へ、又、真、の、世、保、守、り、）

ナ、ヤ、マ、シ、ケ、ヒ、ト、ツ、マ、カ、モ、ヨ、ユ、グ、フ、ネ、ノ、ワ、ス、レ、ハ、セ、
 奈、夜、麻、思、家、比、登、都、麻、可、母、與、許、具、布、祢、能、和、須、礼、婆、世、
 ナ、イ、ヤ、モ、ロ、マ、ス、ニ、（撈、舟、の、忘、し、つ、く、よ、う、ふ、ま、と、思、ふ、次、の、） ハ

ナ、イ、ヤ、モ、ロ、マ、ス、ニ、（撈、舟、の、忘、し、つ、く、よ、う、ふ、ま、と、思、ふ、次、の、） ハ、
 奈、那、伊、夜、母、比、麻、須、介、（人、妻、の、船、を、も、つ、り、神、の、さ、う、呂、八、思、ふ、男、に、）

キ、と、の、か、と、と、ぎ、り、海、の、内、も、糸、を、ま、れ、は、せ、し、一、糸、は、流、れ、か、り、思、ひ、持、つ、と、い、ふ、と、
 べ、く、又、つ、と、い、ふ、

ア、ハ、ズ、シ、テ、ユ、カ、バ、ヲ、シ、ケ、ム、マ、ク、ラ、カ、ノ、ユ、ガ、コ、フ、
 安、波、受、之、氏、由、加、婆、乎、思、家、牟、麻、久、良、我、能、許、賀、正、其、布、
 ネ、ニ、キ、モ、ア、ハ、ス、カ、モ、（ら、い、と、と、か、い、つ、は、く、と、て、女、の、船、）

バ、右、の、田、方、の、方、へ、（オ、ホ、フ、ネ、ヲ、ヘ、ユ、モ、ト、モ、ユ、モ、カ、タ、メ、テ、） 於、保、夫、祢、乎、倍、由、毛、登、毛、由、毛、可、多、米、提、之、
 於、保、夫、祢、乎、倍、由、毛、登、毛、由、毛、可、多、米、提、之、（別、ゆ、ん、と、と、る、時、の、思、へ、り、田、方、を、思、ふ、ふ、ま、）

ト、ノ、の、堅、地、と、や、う、と、て、他、と、い、ふ、と、（ユ、ツ、ノ、サ、ト、ビ、ト、） 許、曾、能、左、刀、妣、等、（許、曾、ハ、妣、の、名、）
 阿、良、波、左、米、可、母、（お、き、り、ま、い、つ、つ、は、か、ら、し、） 阿、良、波、左、米、可、母、（お、き、り、）

マ、ガ、ネ、フ、ク、（ま、全、ハ、洗、を、ら、吉、備、中、山、と、も、保、を、か、ら、ぬ、さ、う、の、ふ、） 古、板、の、
 麻、可、祢、布、久、（中、心、と、い、つ、ぎ、や、） 〇、丹、生、の、ら、和、名、抄、の、上、所、の、あ、し、か、と、い、ふ、と、

武、我、の、秩、又、心、を、始、り、と、ま、し、（ニ、ブ、ノ、マ、フ、ホ、ノ、） 尔、布、能、麻、曾、保、乃、
 尔、布、能、麻、曾、保、乃、（小、布、ハ、一、緒、土、の、丘、有、一、石、の、文、）

鉄、心、ま、に、の、丹、生、の、ま、ち、ま、し、う、（と、ち、） 尔、布、能、麻、曾、保、乃、（と、ち、）

伊、呂、爾、低、氏、伊、波、奈、久、能、未、曾、安、我、古、布、良、久、

伊、呂、爾、低、氏、伊、波、奈、久、能、未、曾、安、我、古、布、良、久、

伊、呂、爾、低、氏、伊、波、奈、久、能、未、曾、安、我、古、布、良、久、

伊、呂、爾、低、氏、伊、波、奈、久、能、未、曾、安、我、古、布、良、久、

伊、呂、爾、低、氏、伊、波、奈、久、能、未、曾、安、我、古、布、良、久、

伊予の事、和歌集
 伊予の事、和歌集
 伊予の事、和歌集

伊予の事、和歌集
 伊予の事、和歌集
 伊予の事、和歌集

已許呂思良受氏

△この所、防人...

於伎氏伊可婆伊毛婆摩可奈之真悲母知氏由久安都

佐能由美乃由都可爾母我毛

於久礼爲氏古非婆久流思母安佐我里能

防人の妻の石

伎美我由美余母奈良麻思物能乎

佐伎母里余多知之安佐無乃可奈刀氏余上手婆奈

礼乎思美奈吉思兒良婆母

安之能葉余由布宜利多知氏可母我鳴乃左牟伎由布

敞思奈乎婆思奴波牟

肌を洗う海傍

於能豆麻乎比登乃左刀余於吉於保々思久俵

見都々曾伎奴流許能美知乃安比太

通の事

△この所、防人...

安抒毛敞可

思ふを許さる

阿自久麻夜未乃

武久麻

ユツルハフマルトキニ
由豆流波乃布敷麻留等伎余
布敷麻留等伎余

可受可母
可受可母

放
放

安之比奇能夜麻可都良加无
安之比奇能夜麻可都良加无

麻之波余母衣可多伎可氣乎
麻之波余母衣可多伎可氣乎

於吉夜可良佐武
於吉夜可良佐武

乎佐刀奈流
乎佐刀奈流

無登須礼抒宇良和可美許曾
無登須礼抒宇良和可美許曾

美夜自呂乃緒可做余多氏流加保我波奈
美夜自呂乃緒可做余多氏流加保我波奈

莫佐伎伊氏曾祢許米氏思努波武
莫佐伎伊氏曾祢許米氏思努波武

奈波之呂乃古奈伎我波奈乎
奈波之呂乃古奈伎我波奈乎

奈流留麻余未仁安是可加奈思家
奈流留麻余未仁安是可加奈思家

且
且

ユツルハフマルトキニ
由豆流波乃布敷麻留等伎余
布敷麻留等伎余

可受可母
可受可母

放
放

安之比奇能夜麻可都良加无
安之比奇能夜麻可都良加无

麻之波余母衣可多伎可氣乎
麻之波余母衣可多伎可氣乎

於吉夜可良佐武
於吉夜可良佐武

乎佐刀奈流
乎佐刀奈流

無登須礼抒宇良和可美許曾
無登須礼抒宇良和可美許曾

美夜自呂乃緒可做余多氏流加保我波奈
美夜自呂乃緒可做余多氏流加保我波奈

莫佐伎伊氏曾祢許米氏思努波武
莫佐伎伊氏曾祢許米氏思努波武

奈波之呂乃古奈伎我波奈乎
奈波之呂乃古奈伎我波奈乎

奈流留麻余未仁安是可加奈思家
奈流留麻余未仁安是可加奈思家

且
且

△くまの扱をてふは

五と例のくま

可奈思伊毛乎伊都知由可米等

カチシイモヲイワケユカメト

夜麻須氣乃

冠

曾我比介宿思久伊麻之久夜思母

ワカヒニネシクイマシケヤシモ

このハ 卷八 も扱をてふは

一そのくまは我にて扱をてふは

△くまのくま以前歌詞未得勘知国土山川之名也

と後でくまは人の注ぐんは

と載るが国主の名不知

とのめくまはくまは

くまはくまはくまは

萬葉卷六之考終

